オーディオ実験室収載

USB-101 試聴記（７）
―スピーカー、アンプとの関係―

既に西方浄土の西野さんのレポートでもオンキョウのプリメインあるいはサトリアンプと B&W105、マランツ７および 8B とタンノイスターリング TWW、XRT-22 とマッキンのアンプと普及システムからハイエンドまで、いろいろと USB-101 を試されて、価格や製作世代、方式の違い（管球か石か）を超えて際立ったパーフォーマンスを示していることが報告されています。そこで、自宅でも USB-101 の試聴を手持ちのスピーカーとアンプを替えてやってみることにしました。

これまでは、主に①をメインにやってきていますが、②以降はスピーカーとアンプを替えた場合に何か相性の問題がクローズアップされるかどうかをみるためです。使用したスピーカーとアンプは次のようなもので、かなり性格の違うスピーカーとアンプ（但し、管球のみ）が揃っています。

① プリアンプ：若松通商マランツ７タイプ→パワーアンプ：Pilot Radio Corporation 5881pp→スピーカー：FALC90EXW
② プリアンプ：しなの音蔵オリジナル→インフラノイズ RMS-1000→パワーアンプ：しなの音蔵 300B シングル→スピーカー：FALC90EXW
③ プリアンプ：若松通商マランツ７タイプ→パワーアンプ：PX25 シングル→AXIOM80
④ プリアンプ：若松通商マランツ７タイプ→パワーアンプ：PX25 シングル→TELEFUNKEN 局用モニターL61
⑤ プリアンプ：しなの音蔵オリジナル→インフラノイズ RMS-1000→AccuphaseF15→【低音用：ヒースキット KT88pp＋中高音用：しなの音蔵 300B シングル＋スーパーツイーター用：Pilot Radio Corporation 6V6pp】→JBL4350A＋PTR7（Pioneer）＋ES103A（村田）
スーパーステレオ
プロセッサー：Dynavector HSS5
フロント： RCA 45pp→ELEFUNKEN 局用モニターL61
サイド：RCA 45pp→Autograph MINI
リア：ヒースキット KT66pp→Stella Harmony

プレイバックソフトは、Lilith を使用し、下記を USB 固体メモリーから読み出します。
音源１：Gabrieli Consort & Players のヘンデルのメサイア
音源２：イ・ムジチのロッシーニ：弦楽のためのソナタ
音源３：David Zinman /Zurich Tonhalle のマーラー3 番

まず、①と②ではスピーカーが同じでプリアンプ／パワーアンプが変わっています。①ではややソフトフォーカス気味ですが、②では直熱 3 極管らしい音の切れとスケール感が出てきます。一方、①がモノーラルアンプ２台、②はステレオアンプであるため、②では、セパレーションがややあまく定位が中央に偏りがちです。このことは、今まで気がつかなかったわけですが、USB-101 からの音楽情報の精度が増したため、その違いに気がついたのであろうと思っております。
次に、③と④は若松通商マランツ７タイプとパワーアンプ：PX25 シングルとし、スピーカーを AXIOM80 と TELEFUNKEN 局用モニターL61 で聴いてみました。非常に個性が強く、音源との相性が難しい AXIOM80 と幅広い音源に対応できる優等生タイプの TELEFUNKEN 局用モニターがどのように鳴るかに興味があります。まず、驚いたことには、じゃじゃ馬の AXIOM80 が何を聴いても素直にしかも俊敏に反応してくれることです。20cm フルレンジですから、重低音の伸びを期待することは無理ですが、思った以上にバランス良く鳴ってくれますし、大編成もので音が濁りません。アンプは変えずにスピーカーを TELEFUNKEN 局用モニターに変えますと、もともとこのスピーカーはバランス良く音色が美しいのですが、それがそのままグレードアップした感じです。つまり、USB-101 を通すと良い個性はそのまま残し、欠点を出さないようにする効果があると感じました。
最後の⑤は JBL4350A のマルチアンプシステムに、スーパーステレオを加えたものですが、こういった複雑なシステムになると音源が多岐にわたるとスピーカーの各ユニットのくせと相互に作用し、この音源はいいが、これはバランスを崩すといったように非常に調整が難しいものです。しかし、小編成から大編成まで破たんのないプレイバックぶりを示し、特に音のブレ、揺らぎがないことで、ダブルウーファーが受け持つグランカッサなど 50Hz 以下の領域の明瞭さと迫力は他のスピーカーの追随を許しません。ティンパニの弱音の連打がこれほど分離してしっかり聴こえるのは初めての経験です。中高域の分解能も十分で、USB-101 の効果がしっかり出ていると感じます。
以上、結論として、日米英独のそれぞれのスピーカーの何を持ってきても破たんなく安心してバランスの良い音楽が楽しめることが分かりました。特に、音源を変えるたびにはらはらさせられてきた JBL4350A と AXIOM80 がこれほど安心して気軽に聴けるようになったのは初めてのことです。USB 固体メモリーと USB-101 により、入力信号の精度を上げることが、これらの結果に結びついていると推察しています。

以上